

特別講演 「森と人とのつながり」

京都教育大学 教授
山下 宏文



皆さんこんにちは。今回の子どもサミットのテーマを知っていますか？そこまで見ていないかもしれませんが「古都で学ぶ森と人とのつながり」となっているんです。

古都というのは京都のことですが、この古都・京都で“森と人とのつながり”について学ぼう”というのが、今回の子どもサミットのテーマです。

先ほど「森と人とのつながり」ということを皆さんが発表してくれたと思います。それらもまとめながらお話しをしていこうと思います。

目には見えない「森と人とのつながり」

すでに皆さんの発表の中でも「森と人とのつながり」についてのお話は沢山あったのですが「森と人とのつながり」には目に見えないということが結構多いのです。目に見えないから気付かないでしまうということがあつたのです。森林の学習を通して“目に見えないつながり”これをしっかり捉えることが必要です。これについては、後で環境としての動きのときにお話ししますが、目に見えないつながりに目を向けていくんだということです。

昔の人は、こうした目に見えないつながりを「そこに神様が居るんだ」というように感じて大切にしていました。これは明治時代くらいまではそう信じていました。

例えば、先ほどの発表にもあつたけれど、すぐに崖崩れが起つてしまつて、起きやすい、そういうところの木を伐ると困りますから「そこに神様が居るんですよ」という逸話を創つて「そこには神様が居るんだからその木を伐っちゃいけません」「森や木には神様が降りてくるんだ上から降りて来るんだ」と言つて、こういう森を守りました。

それと、今日の発表でも多かつた“森と水”というのは非常につながりがあるんです。

「水の神様」がどこにいるか、皆さん知っていますか？水の神様は“山の中”“森の中”にいるんです。

京都の水の神様は「貴船神社」という神社に祀つてあります。皆さんの家の近くにも、もしかしたら貴船神社という神社があるかも知れません。もし、あればそれは同じ神様なんですね。本社が京都のこの貴船神社です。機会があつたら、是非行ってみたいですね。

～ 水の神様を祀る貴船神社 ～



そこには絵馬があつて、『水神』と書いてあるんです。ここは水の神様を祀つています。そして別の絵馬には、「黒い馬」と「白い馬」が描かれているんです。

「なぜ水の神様に馬が関係するの？」と思うでしょう。それは、水の神様をお願いする事が二つあるからです。水の神様をお願いするとしたらなんでしょう？

一つは「雨を降らせて下さい」とお願いします。ずっと日照りで雨がなく、雨を降らせてほしい時には、黒い馬を奉納する。もう一つは「雨を止めて下さい」これ以上降つたら洪水になるので止めて下さいとお願いする時があるんです。このときには、白い馬を奉納したのです。それで、「黒い馬」と「白い馬」の絵があるのです。

この貴船神社という神社が何処にあるか、京都の人はだいたい分かるかと思うのですが、これは京都を上から見たところですから、地図参照。ここが御所、これが二条城、琵琶湖、いま皆さんがいるところは、ちょうどこの辺（京都市東山区）です。

京都には、鴨川という川が流れています。賀茂川と高野川が合流して鴨川となります。賀茂川をずっと遡つて行くと、ここに貴船神社があるのです。山の中ですね。しかも、鴨川の源流、水源に水の神様を祀つています。それで、昔の人は「森」と「山」それと「水」との関係というのを感じていました。

こんな山奥に行かなくても、皆さんがいるこの近くや「若王子山」、明日行く「高台寺山」にも、同じように水を祀つているところがあります。若王子山の麓（ふもと）には、「本間竜神」や「弁天様」を祀つていたり、山からお水が出て来るところに神様が祀つてあります。

「円山弁天堂」は、知恩院の鐘があるところを下つた所にあります。それと、明日行く「清水寺」は“清い水”といって、きれいな水が湧き出てきたので、そこに観音様を祀つて「清水寺」というお寺が出来たわけなんです。“山と水との関係”というのを神様に見立てて、その結びつきを感じてきたのです。

その他に、元は山の中にあり、今は「岡崎神社」というところに下ろして祀つている「雨社」というのがあります。雨社は山の上で雨乞いをするところでした。

皆さんの家の近くに、「竜王山」「竜王」という地名や山が多分あると思います。竜王山は、その頂上に「八大竜王」という神様を祀つて、雨が降らない時に山の上に行つて「雨を降らせて下さい」とお願いをしました。

こうやって昔の人は“見えないつながり”に神様を感じて、そのつながりを大切にしていました。

～ 東山麓にある水の神 ～



円山弁天堂



音羽の滝（清水寺）



三解社（熊野若王子神社）



本間龍神（熊野若王子神社）



雨社（岡崎神社）

では現在、“森と人とのつながり”にはどんなことがあるのでしょうか。これは皆さんの発表の中にもたくさん出て来ましたので、できるだけ簡単にお話ししていきたいと思いますが、つながりとしては大きく三つのことを分かってもらうといいと思います。

一つ目、「木材や食料としてのつながり」

木材や食料、これは目に見えますね。だからこれは目に見えるつながりということになります。

二つ目、「レクリエーションや景色としてのつながり」

皆さんが環境学習をしたりする場合は、このつながりに入ります。これも実際にそこに行くのだから見ることができます。

三つ目は、「環境としてのつながり」

これは、目に見えないつながりということになります。目に見えない環境としてのつながりは“水源を守ること”“国土を守ること”“快適な環境をつくること”そして、“地球環境を守ること”の4つがあります。皆さんの発表の中にも、これに関わるものが沢山出てきました。

「木材や食料としてのつながり」

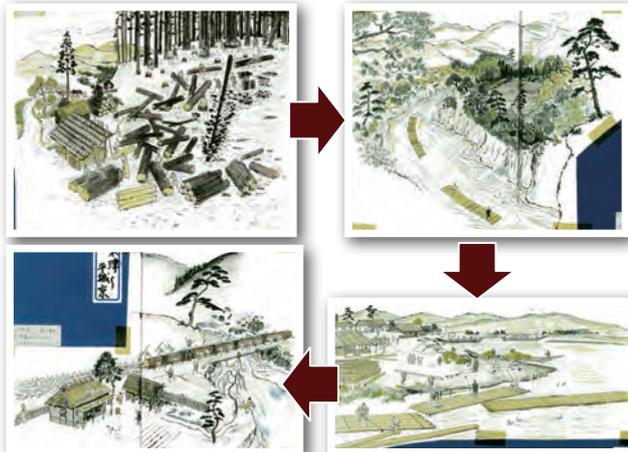
まず、“木材や食料としてのつながり”です。京都に来て気がつくと思いますが、京都には古いお寺が沢山あります。知恩院の山門を見ましたか？ものすごく大きかったです。あれは、すべて木造です。木でできています。それと、明日行く「清水寺」、「舞台造り」と言っているお寺が出来ているんです。これも全部木造です。

今では、私達の家はマンションとかコンクリートという家も多いかと思いますが、木造の家に住んでいる人も多いのではないのでしょうか。小学校で木造ということもあるかもしれませんね。

私達は、木材を使って建物や木製品を作っています。その中で、非常に優れた「木の文化」というのを育ててきました。だから、私達はこの優れた「木の文化」を受け継いで行く必要があります。明日、通ると思いますが、清水山という山に「世界文化遺産貢献の森」があります。お寺などの屋根は檜皮（ひわだ）といって檜の皮を屋根に葺くのですが、その檜の皮が足りなくなっています。その檜の皮を、どこかでつくることを確保しなくてはならないということで「世界文化遺産貢献の森」として設定し、その檜皮をつくるためのヒノキを育てるようになりました。明日は、それを見られると思います。このように私達は「木の文化」を引き継いでいかなければなりません。

昔は、木造の建物を造る時にたくさん木材が必要でしたが、その木材をどこから持って来たのでしょうか？昔は山から木を伐りだして、川に流し、そして川から上げて、また陸を運んでいく。この近くでいうと、奈良の都もそうですし、この京都の都もそうです。

～ 木材の運搬 ～



京都や奈良の都は、木材をどこから持って来たのか？後で地図帳を見てもらうといいですが、琵琶湖の南の方に「田上山」（大津市）という山があって、そこが古代の木材の供給地でした。そこから大戸川という川に流して、瀬田川、そして宇治川に流し、奈良に行く時には、更に木津川に流しているのです。そうやって持って来たのです。



←古代の木材供給地であった田上山の様子（大正4年）



（昭和58年）

昔に木材を供給していた場所が、その後どうなっていたか。棚倉小学校の発表の中にもありましたが、そこがこんな状態 <上写真参照> になってしまいました。ピンとこないかもしれないけれど、大正4年の頃の写真ではこんな真っ白な木一本もない、こういう山になってしまっていました。今は、治山工事をして森に戻っているのですが、まだ戻ってない部分もあります。

木材が必要だからといって「どんどんどんどん伐りすぎちゃう」という風になるんですよ」ということです。だから、そのことも考えなければいけません。

その他“木材や食料としてのつながり”は、皆さんの身近なところにもあると思います。樽や装飾品、そして食べ物。きのこの質問が沢山でいましたが、きのこや山菜といったものは、“人々と森とのつながり”の中で得られるものです。それと、昔は燃料として炭なども非常に重要でした。最近あまり炭を使わないかもしれないけど、一部ではまだ残っています。新しいところでは、「木材を発電に使いましょう」というようなことも始まっています。

「レクリエーションや景色としてのつながり」



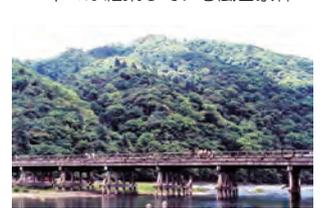
清水寺



木々が紅葉している嵐山景林



銀閣寺



渡月橋

二つ目は“レクリエーションや景色としてのつながり”です。この写真<上写真参照>を見て貰えば、分かると思います。先ほど話した「清水寺」明日見るところです。これが「銀閣寺」（金閣小学校の参加があるので金閣寺はこういう風に示さなかったのですが…）それと「嵐山」、これは「渡月橋」という有名な橋なんです。きれいだなと思うでしょう？これらが汚いと思う人はあまりいないと思うのですが、もし周りの森がなくなってしまうたら、どうでしょう？全部周りがお家だったら、皆さんはきれいだなって思うでしょう？

そんなにきれいだとは思わないと思うのです。どこかの小学校の発表でありましたね、「健康な森」の発表。「この森きれいだ 美しいなあ」そういう風に感じられるそういう森は、健康な森だと思います。「この森汚いな」そういう風に感じたら、それは不健全・健康でない森です。ぜひ、皆さんには森を見て「美しいなと感じられる心」を育てて欲しいのです。

その他には、「森林セラピー」といって、森林の中で健康を取り戻すことなどもあります。

いろんな働きがありますが、これらが“レクリエーションや景色としてのつながり”です。



森林セラピー
(長野県信濃町)



森のようちえん
(鳥取県智頭町)



森林学習

森林の美しさを感じられることが大切

「目に見えないつながり（環境としてのつながり）」

そして“目に見えないつながり（環境としてのつながり）”です。

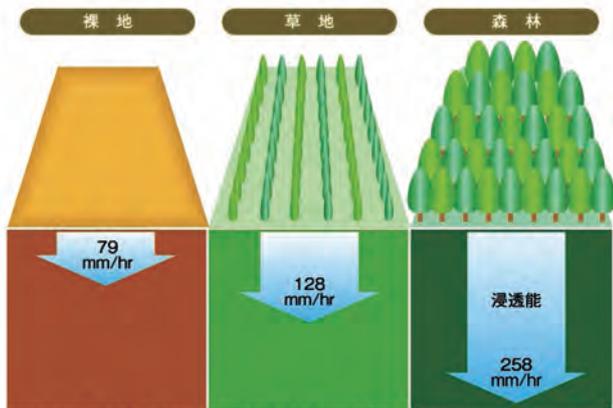
“水源を守る”「水量を調節」したり、「水質を良く」したり、「水を溜め」たり といった働きがあります。これは、今日いくつかの学校で発表してもらいました。

水源を守る

水量調節
水質浄化
水資源貯留
など



水源かん養保安林(宮城県村田町)



資料：村井宏・岩崎勇作「林地の水および土壌保全機能に関する研究」1975

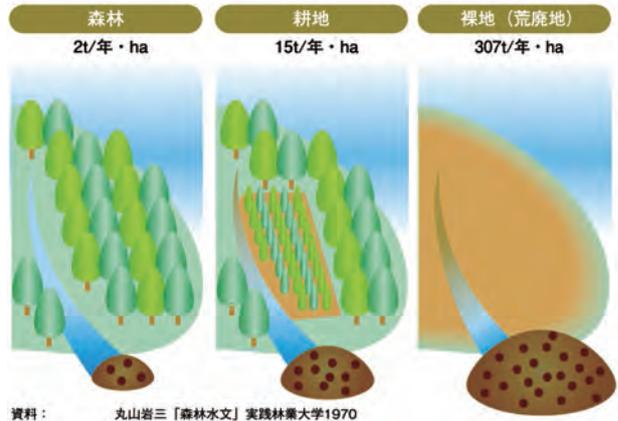
“国土を守る”「浸食」や「崩壊」「土砂の流失を防止する」とか「土壌の保全」「防風」「防雪」「防潮」といった働きもあります。

森林があるのとないのでは、流れてくる土砂の量が、ぜんぜん違うのです。水源を守ることは水を守ることでありますが、水源を守るところには必ず森があり、ダムに土砂が流れてくるのを防いでいます。

国土を守る

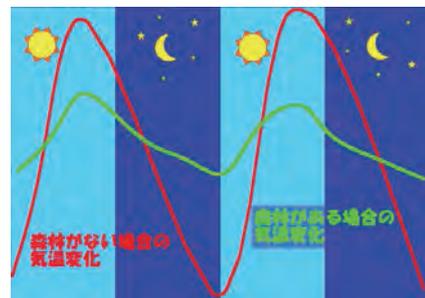
浸食や崩壊の防止
土砂の流出防止
土壌の保全
暴風・防雪・防潮
など

土砂流出防備保安林(京都府舞鶴市)

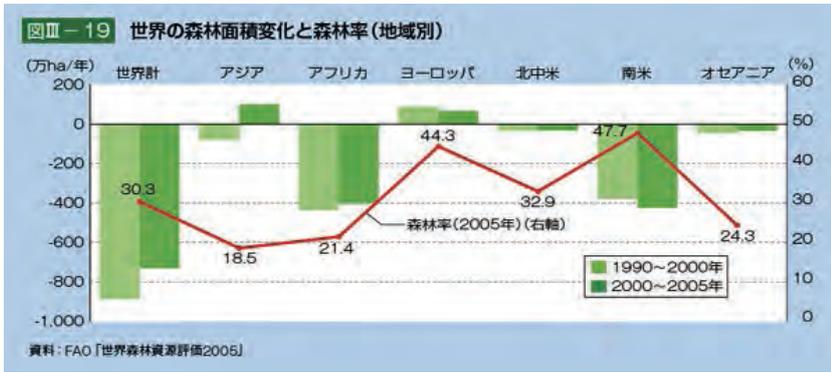


快適な環境をつくる

気温の調節
木陰
大気浄化
騒音の低減
など



最近、特に注目されているのが、“地球環境を守る”ということです。「地球温暖化」を防止していく、緩和していく上で非常に大事です。二酸化炭素を木が溜めて、そして木材となっていくしますので、二酸化炭素を固定していくのです。



地球環境
を守る

地球温暖化の緩和
生物多様性の保全
など



- ・みんなが森林について関心を持ち、よく知ることに
- ・「天然林」と「人工林」の守り方（管理・維持の方法）を分けて考える
- ・国産の木材を有効に使ってゆくに
- ・みんなが森林を守ることに協力すること

最後に…「どうすれば森林を守っていいのか」

私達と本当に深いつながりをもっている森林を守ってゆかなければなりません。今日の発表の中でも、「森林を守っていきたい!」「自然を大切にしていきたい!」という声がありました。その気持ちを、是非これからも持ち続けてほしいのです!

一体どうやっていけば、守っていいことになるのでしょうか?森林については誤解が多いようです。日本の森林の面積はどうなっているのでしょうか?減っていると思っている人が意外と多いのです。皆さん、そう思っていますか?日本の森林は、50年もっと前から減っていません。面積は変わらないのです。このグラフを見ても分かると思います。<図Ⅲ-3>

昭和26年、皆さんはまだ生まれていませんね。皆さんのお父さん、お母さんも、まだ生まれていない頃だと思います。その頃から面積は変わっていないのです。日本の森林では何が問題なのか?面積が減ってきていることは言えないのです。

ただ、その森林でも「人工林」と「天然林」に分けてみると、人工林は増えてきたのです。天然林は減ってきたのです。だから、その減ってきた天然林をこれから減らさず守っていくということが大切です。

では、人工林が増えてきたからいいのかと言うと、発表の中にもありましたが、人工林は人が造った森ですから、人がそのまま守り続け、手を加えていかないと荒れてしまい森林の働きをしなくなるのです。そのことをきちんと捉えることが何より大切です。

最後に、「どうすれば森林を守っていいのか」について、大切なことを4つにまとめてみました。

①みんなが森林について関心を持ちよく知ることに

関心を持ってよく知ることで、知らなければ守って行こうと思っても守れません。

②「天然林」と「人工林」の守り方（管理・維持の方法）を分けましょう

人工林は人がもっともっと手を入れて、そしてどんどん伐る必要のある所は伐っていきましょう。こういう守り方をしなければなりません。天然林は、いろんな天然林があるのですべて同じわけではないのです。

今日の発表で一番多かった里山。里山は人とのつながりが非常に強い森ですから、人がどんどん手を入れていかなければ守れません。

例えば、東北の方の「ブナの森」とか、或いは屋久島の「屋久杉」だとか、そういったような所は、なるべく人の影響を入れないで守っていく、というようになりますが、天然林と人工林の守り方を考えましょう。皆さん、これで大丈夫ですね。はっきりしてきましたね。

③国産の木材を使っていきましょう

日本は森林に多く恵まれている国なんですが、外国から木材が沢山輸入されています。どうして、日本の国の木材を使わないのですか?日本の森の木の量はどんどん増えています。だから日本の木材を有効に使っていくことを考える必要があります。

④みんなが森林を守ることに協力する

私達みんなが、都市に住んでいる人も山の方に住んでいる人も、みんなが力を合わせる事が大切です。

「森林をどう守っていくか」ということに、皆さんの関心が結びついていくといいな、というふうに思います。

私からの話は以上です。

講話「“無数のものに感謝する気持ち”を大切に」

清水寺 英玄録事

ごくごく身近な存在であるというようなのが、この京都市内にあるようでございます。人口が約147万人位ですが、これだけ街の規模がありながら、山が近くにあつて水もある。この「山紫水明」ということで、京都が昔から平安京という都でございます。一千年以上も都として栄えた理由というのがここにある訳でございます。

折角でございますので、この「清水寺」のことも少しご説明申し上げます。清水寺は、今から1,200年以上も前に最初に建てられました。西暦で申し上げますと、778年でございます。

京都の南、奈良県に「延鎮上人」という和尚さんがおられました。ある日、この和尚さんが夢を見られ、(こちらにお祀りされているような)仏さんが出てこられました。仏さんが、『京都に木津川というのがあるのでその川の上流をたどってきれいな水の源(源泉)を見つけて欲しい』と言われました。この延鎮上人は、仏さんのお告げのとおり、この川の上流を進んで行きまして、辺りを隈なく探してようやく辿りつきましたのが、このお寺の中でございます(「音」に「羽」と書きまして「音羽」という)「音羽の滝」という、三すじの滝でございます。ご覧になられたことありますか？

そんなに大きくはないんですが、三すじございまして、『一つ飲んだら賢くなくて一つ飲んだら恋人が出来て一つ飲んだら元気になる』と、ようガイドさんが言いはるんですけども、皆さんに取って置ききのヒミツを話しますと、その三すじの源は実は一つになっております。ですから、物理的にはどれを飲んででも一緒なんですけれど、諸々の願いが叶うようにということで“諸願成就”とさせていたいただいております。

この音羽の滝で(「滝行」といい)水に滝に打たれる)ご修行なされておりました行叡さんという仙人のような方がおられまして、延鎮さんはこの行叡さんから『私は実はあなたが来るのを長い間待っていましたこの地に仏さんがお住まいとなるべきお寺をぜひ建てて欲しい』とお告げを言われたわけでございます。そして、この延鎮さんはお告げのとおり「霊木(こういった木の固まり)をその行叡さんという仙人から授かり、それを仏さんのお姿に彫りまして、小さな祠(小さなお寺でよろしいと思ひます)にお祀りして、この音羽山の山中にお祀りしたというのが、この清水寺の始まりでございます。

そこから2年後でございますが、当時、征夷大將軍というお侍さん、將軍さんで「坂上田村麻呂公」という方が、この地にシカ狩りに訪れられました。

当時、シカの血というのが安産にご利益があるとされており、言うまでもなくご夫人の高子さんという方がご懐妊、妊娠されておられたわけでございます。ちょうど、この辺りでシカを探しておられまして、(先ほど申し上げた)延鎮さんというお坊さんと出会い、延鎮さんから、『この場所は仏さんがお住まいの場所でございます 仏さんがお住まいの場所でそのような理由でシカの命を絶つというということはいかがなものか』といわれ、同時に“**仏さんの教え**”を伝えられた訳でございます。

この田村麻呂公という將軍さんは、非常にその教えに感動しはりまして、ご自身のお屋敷を今風の言い方で言いますと“**財政的なスポンサー**”となられまして、ご自身大きなお屋敷をお持ちだったんですけども、そちらを



解体(即ちバラバラに)し、その木の資材(大きな木々)を、『どうぞお寺の建物 お堂の礎としてお使い下さい』と延鎮さんという和尚さんを助けられましたのが、この田村麻呂公でございます。

西暦で申しますと800年頃に、清水の舞台がございまして本堂を初めとする、お寺の多くの建物の整備が整ったと言われております。

現在まで、実は10回火災に遭っておりまして、現在の建物は11回目の再建でございます。

1633年頃、江戸幕府 徳川三代将軍 徳川家光公によるご寄進、ご指示、ご助力があったそうでございます。

昔はもっと大きかったのですが、今ではお寺の敷地、約4万坪程でこれは東京ドームでいいますと三分位の大きさになるそうでございます。その中に30程の建物がございまして、その殆どが木造でございます。昔の火事というのは、今のニュースでいう“外国の山火事”のようなイメージでございまして、一度火の手がつくと、もう燃える物がなくなるまで、その火を消すことが叶わないといった具合でございます。

こちらには、約1,500本の桜と約1,000本の紅葉がございまして、それぞれ四季折々の風情がございまして、

先ほど申し上げた 四文字熟語「山紫水明」、そして今「四季折々の風情」と申し上げました。単純に頭割りいたしましても、一日が「朝昼晩」と、もちろん日本には四季がございまして「春夏秋冬」がございまして、

「朝昼晩・春夏秋冬」と単純に申し上げても一年で最低でも“12の顔”があるわけでございます。中でも朝の清々しい空気というのはやはり格別でございます。

今日、皆さん何時に起きましたか？朝の空気は気持ちよかったですか？こちらでも、朝になりますと「空気というのは格別やな」と日々思っている次第でございます。

当山は、毎朝5時に大きな鐘が13回鳴ります。元々お寺にあります鐘というものは、時を知らせるものでございます。お寺さんによって、鳴る時間帯というのはバラバラであつたりしますが、当山の場合は、朝の5時に鐘が鳴ります。そして、お寺というのは朝の6時に開門いたします。開門時間、閉門時間があるお寺のなかでは最も早く開いて、最も遅く閉まるのがこの清水寺でございます。

朝、開門と同時に近所の方が大勢(100人位)日々朝参りと申しまして、お寺にお参りに起こしいただいております。われわれも、勿論その頃に朝のお参りをさせて頂くんですけど…。

今からご紹介するのは、当山のご住職で最もお寺で代表とされる和尚さんが、ある日、朝参りをされた時の話でございます。

その日は、少し雨が降っておりました。それで、和尚さんは境内一円、朝参りを終えられますと（ここの一階にお寺の寺務所がございます）この寺務所にお越しになられて、少々雑務をこなされた後に、「自坊」（和尚さんがお住まいの小さなお寺がこの境内に別にございます）に戻って行かされる時の話でございます。

その頃には、すっかり雨が上がっておったんですけど、先ほど申しました清水の舞台上に、高校生くらいの（少し皆さんより上の学年の）若者4～5人が、その舞台におられたわけなんです。

和尚さんがその若者に向かって『おはよう』と声をかけました。4～5人の方はリアクションがないんですね。無視したはる訳でございます。それで、和尚さんがさっきよりもっと大きな声で『おはよう』こう言われますと、その4～5人の若者の方が『おはようございます』と何とも気だるいやる気のないような形で、こう反応された訳であります。

そこで和尚さんが、『君たち 朝からお寺にお参りかいな大変らしいなあ～どうや この朝の空気 気持ちええやろ』と、こうおっしゃられますとですね、その若者の方は『いやいや ちがうちがう 自分たちは大阪から来て 昨晩 京都市内で一晩中遊んでおった 今から大阪に帰ろうとしたけど 昔（皆さん位の頃） 修学旅行で来たことのある 清水寺に 帰る前に久しぶりに寄ってから帰ろうか』と、いうことで、お寺にお越しになられたそうでございます。その場でも和尚さんが、『君たち 朝の空気美味しいやろ この朝の清々しい空気というのは昨日一晩中遊んでおった 京都の町並みでは ちょっと味わえへんもの とちゃうか』と言われますと、『いやいや こんな空気なんか臭い臭い 草臭いわ』とおっしゃられたそうです。

すると和尚さん、『いやいや よく味わってみい～大地や自然の恵みがまったこの空気これみんなタダなんや！ だから 沢山もって帰ったらよろしい！ いやいや 空気だけやないで～例えば 大根やキュウリ 魚もみんな タダなんやで』

それにたいして若者達はですね、『いやいや 和尚さんそれはおかしいんちゃうか？確かに空気がタダなんは分かる でも大根やキュウリ魚はみな何百円とスーパーに書いてあるやないか 和尚さんスーパーにお買い物とか行ったことないんか？』

すると、和尚さんこうおっしゃられたそうです。『勿論スーパーにも行ったことがあるし 魚やキュウリや大根 野菜や果物 いろんな食べ物を買ったことも 勿論あります しかしよう考えて欲しい 例えば魚を釣る漁師さんが魚を釣りました 大きな鯛を釣りました これは大きな鯛やな～はい500円！って 海にお金を払うか？ また 大根やキュウリなんでもいい実がなった はい ありがとう！って キュウリに100円200円と お金を払うか？』と、“払わへんやろ”ということをおっしゃっておられます。

スーパーに、大根200円 キュウリ100円と書いてあるのは、穫れた食べ物を「運ぶ人」がいて「整える人」がいて「売る人」がいるという、要するに手間賃、人件費、人にかかる経費であって、大根やキュウリ、魚や食べ物“自然の恵み”というものは、“みな本当はタダなんや”というお話でございます。

我々は、こうして知らず知らずのうちに“無数の自然の恵みによって支えられている”ということ、を、ぜひとも忘れんと帰って欲しいということで、和尚さんはその若者達と別られたそうです。

この話で伝えたかったことは、われわれは無数の支え、恵みによって、（言い換えるならば 住職の表現でございますが）“見える命と見えない命に 日々支えられている”訳でございます。皆さんくらい大きくなれば、おそらくお分かりになられると思います。

世界には、現在70億人くらい人がいます。食べる物や毎日飲む水さえままならない方も大勢おられますし、治安が悪かったり、人と人が争っていることによって安心して家の外に出ることすらままならない方が大勢おられるということは、もう皆さんくらい大きくなれば知っていると思います。

蛇口をひねるときれいな水が出ます。誰かに襲われたりする不安もさほど無く、「今日はどこどこ行こう」「あっこ行こう」「夏休みやから遊園地へ行こうか」「夏休みやからディズニーランド行こうか」と、色々ですね。外に出かける予定を立てたりします。そんなことすらままならない方が世界には大勢おられるわけですが、安心して元気に外に出ることができ、この日本の平和で安全で安心な状況を維持管理していくために、実は目に見えない所で本当に多くの方々のご尽力がある訳でございます。

それと同時に、例えば皆さんはもう文字読めますね。勿論書けるかと思えます。漢字をもう勉強しているかも知れませんが、最近ではもう小学校の頃から英語も勉強しているそうでございますが、もっと言うならば「なぜ字が読めて」「なぜ字が書いて」「なぜ話ができるか」これは、今日まで生きてこれたのは勿論、お父さんであったり、お母さんであったり、ご家族また学校の先生方、そういった方々の支えによって今日の皆様が当然ある訳でございます。

森や海や川や“すべての自然の恩恵 恵み”と申しますけれども、これらもまた、我々が生きて行くのに必要不可欠でございます。それらも無数の“見える命”と、“見えない命”によって成り立っているのでございます。この命に対して“心から感謝を気持ちをもつ”これが本当に大切なことやと思えます。

私が今こうして皆様にお話ししていることも、何も真新しい事ではないでしょうし、ひょっとしたら今までご両親であったり、ご家族、学校の先生方、もっと言うなれば、今回のこの『子どもサミット』を通じて、皆さんがなんかの形で言い方が違ったり、表現方法は違っても知れませんが、耳にした事かも知れません。おそらく、これから大きくなっていく過程においてですね、何度となく耳にすることかと思えます。皆様はこれから繰り返し繰り返し、こういった事を聞いていくかと思えます。それはそれだけ大切な事やからでございます。大切なことで、それだけ我々が忘れてはならない事。でも、なかなかその通りには行かない事だから、我々は何度も何度もこのことを耳にするわけでございます。

例えば、我々の体は75兆個の細胞で構成されているそうですが、心臓は一日10万回鼓動するそうでございます。一回として自分の手で動かしている訳ではなくて、心臓はこう動いてくれている訳でございます。“生かされている”という表現をよく用いますけれど、正にもう、医学的にも我々は生かされている訳でございます。

一つ話をご紹介させていただきます。

昔、ある神父さんがおられまして、その神父さんの所にある男性の方がお越しになりました。

この男性は悩みを抱えており、「もう自分の人生にこれからのいい事ないんちゃうかな」と全く前向きになれずにいた訳でございます。すると、一通り話を聞きましたこの神父さんは、この男性に尋ねられました。

『貴方にとって一番大事な物は何ですか？』少し考えると、男性は、『私にとって一番大事な物は命です』。すると、神父さんは、『じゃあ すみませんけれど 貴方にとって一番大事な命を 私に見せて下さい』この男性の方は（この胸の辺りを）ポンポンポンと叩かれまして、『これが私の命です』と。神父さんは『いやいや それは貴方の服です』こうお答えになられたそうであります。

少し困ったこの男性の方は、今度は上半身を脱ぎまして、もう一度胸の辺りをポンポンポンと叩かれたそうであります。すると、神父さん今度は『いやいや それは貴方の胸です』と、おっしゃられたそうでございます。

暫く考えたこの男性の方は『私にとって命が一番大事であることは間違いないけれど どうやっても 貴方に見せる事は出来ません 申し訳ない！』とおっしゃられると、神父さんは、『本当に大切なものというのは なかなか目に見えなかったり 気付かれなかったり するものでございます 貴方にも実は目に見えない**“本当に大切な物”** **“恵まれている物”** がたくさんある訳でございますから それらを今一度かみしめて そう落ち込むことなく もう一度ご自身の人生を頑張ってみられたらいかがですか』と、お答えになられたそうでございます。

本当に大切なものであったりそういったものは、我々なかなか目に見えにくかったりするものでございます。

“目に見えないものを大事にする”というのは、人間にとって非常に優れたところだと思う訳でございます。

皆さんは、積極的に自然であるとかそういったものを散策して、森の中にご自身の身を置いて、様々な活動をされていると伺っております。とても素晴らしいことだと思います。その活動の中で、例えば色んな発見があったり「森はこうなってんねや」「虫はこうなってんねや」「葉は 木々はどうなってんねや」など、色々な事があるかと思えます。それらの活動内容を意見交換して皆さんそれぞれご発表なされたそうでございます。自然の大切さを改めて感じる機会にもなったかと思えます。

しかし、今世界中でご承知のとおり、残念ながらもう失ってしまったり、また、傷ついてしまったり、今でもなくなりつつあるような、そういった自然を「何とか取り戻そう」「何とか守ろう」「何とか保護しよう」「元の地球にあったその姿に何とか少しずつ頑張っていこう」という動きが沢山ございます。ペットボトルの再利用であったり、“E C O（エコ）”という表現なんかがよく用いられるのでありますが、とても大切な事でありまして、我々ひとりひとりもっとそういった活動に積極的に尽力していくべきだと思います。

しかし、忘れてはいけないのは、我々はあくまでも、**“自然をコントロールしたり 自然の上に決して立つことは出来ない”** ということでございます。

ご承知のとおり、東北で震災がございました。あえて批判を恐れずに申し上げますと、われわれが自然を大切にしても、また、大切にしなくても自然災害というものは恐らく起こります。我々が出来る事といえば、それらの災害の経験を踏まえて、その被害が少しでも小さくなるよう努めていくことしか出来ない訳でございます。

何を申し上げたいかといいますと、我々はあくまでも**“大きな大自然の中の 非常に最たる微小たる人間である”**というその立場を、きちんと認識する必要があると思うんですね。

今回の「子どもサミット」において、『森を支えよう 森に触れよう 木を使おう そして 森と暮らそう』と表現されておるそうでございますが、森や自然、また我々とのつながりを少しでも感じるということは、先ほど私がご紹介させていただきまして “自然の中の見える命” であったり、“目に見えない命” とのつながりを感じて、**“感謝の気持ちを持つ 大切にしよう”** ということを改めて自覚する良き機会だと思います。それらの命によって我々が支えられている訳でございますので、今後とも、皆さんが積極的にそういう活動にご尽力いただきまして「今皆さんが元気である」「命を支えていただいている」そういった**“無数のものに感謝をする気持ち”**を更に育んでいただきまして、そして、素敵ないい大人になり、いい人間になり、ご成長なされます事を心からお祈り申し上げます。

以上をもちまして、簡単ではございますが、私の話に代えさせていただきたいと思えます。

ありがとうございました。

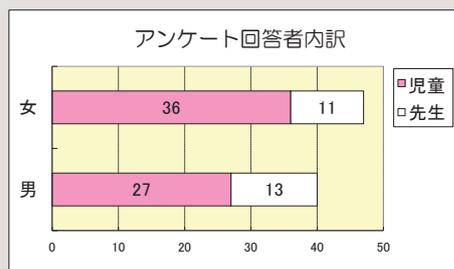


「学校林・遊々の森」
全国子どもサミット in 京都

「学校林・遊々の森」全国子どもサミット in 京都 アンケート集計結果

回答状況

アンケート回収 97人中 87人



主な感想



森林体験活動発表

- ＜児童＞ ほかの学校の活動状況を知ることができた。
巣箱かけや水質調査などの発表に驚いた。
発表を通じて地元の良さを知ることができた。
緊張する中でも、満足のいく発表ができた。
- ＜先生＞ 児童と同様の意見のほか、児童たちは長時間の発表を集中して聞いていた。



ナイトウォーク

- ＜児童＞ 夜の雰囲気の中で新たに自然を感じたり、静かな夜の中で集中して観察したり、
色々な音を聞くことが出来て、よい経験ができた。
色々な樹木を知ることができ、巨木に感動した。
虫（特にセミ）の羽化が見られて感動した。
- ＜先生＞ 安全への配慮に感謝したい。



自然体験活動

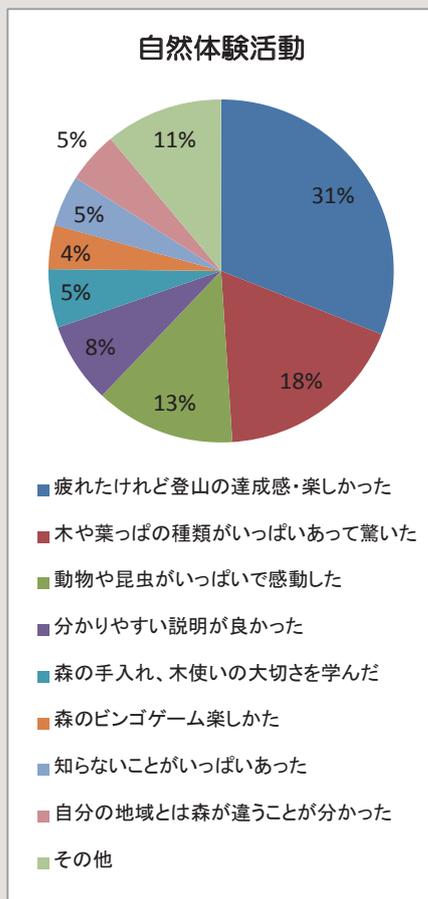
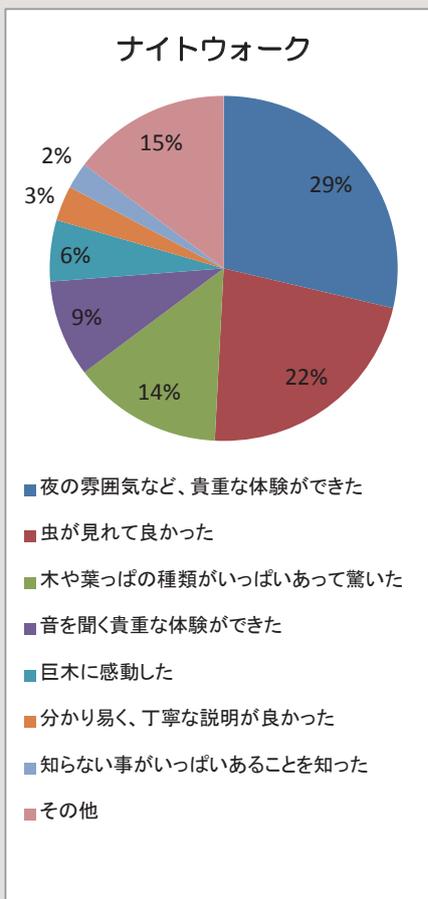
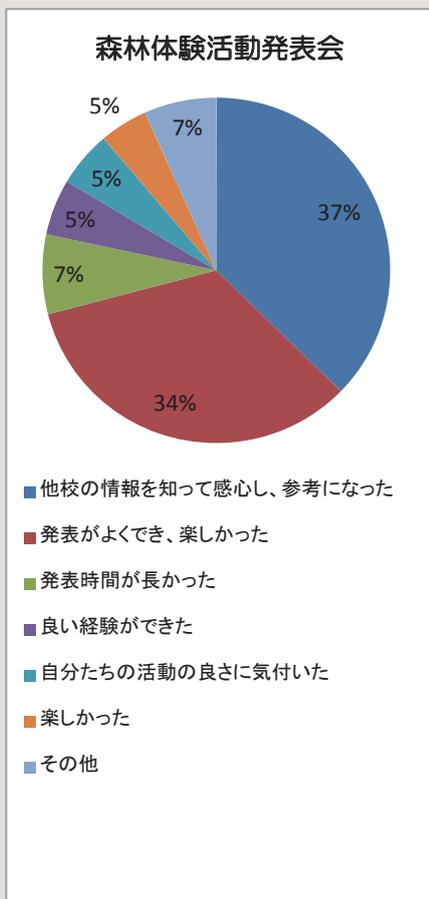
- ＜児童＞ 筋肉痛になりそうなくらい疲れたが、自らゴールできた達成感、満足感があった。
- ＜先生＞ 説明も分かりやすく植物だけでなくカブトムシなどの昆虫や京都の景色、植物の
違いなど、色々な気づきや感動を覚えた。
知ることの楽しさや、知らないことを知り、今後調べていきたい。



その他

- 木材の利用の必要性や森林の管理に人手を加えることの必要性を肌で感じた。
昨年も参加したが、先生間、児童間の交流がもっとあると良かった。
安全に配慮するなど丁寧な運営と、分かりやすい説明に感謝したい。

※全アンケートより抜粋





各実行委員会の特徴

- ① 京都森林インストラクター会 84
- ② 公益財団法人 オイスカ 85
- ③ 公益社団法人 京都モデルフォレスト協会 ... 86
- ④ 京都伝統文化の森推進協議会 87
- ⑤ 京都府農林水産部
モデルフォレスト推進課 88
- ⑥ 京都市林業振興課 89
- ⑦ 林野庁 90
- ⑧ 近畿中国森林管理局 91

京都森林インストラクター会

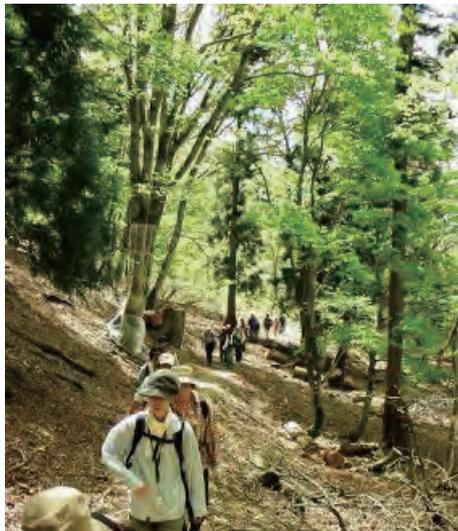
京都森林インストラクター会は、京都に在住・勤務する 森林インストラクターの有資格者を中心に組織されており、その活動は今年で 15 年目に入りました。平成 23 年度の会員数は 66 名、活動日数は 120 日に達し、指導した人の数は 2,000 人を超えています。活動地域は京都一円で、子どもからシニアまで幅広い年代層を対象に、自然観察や森林整備など種々指導を行なってきています。次にいくつかの活動を紹介します。

「衣笠山遊々の森」2001 年から京都市立 金閣小学校の児童を対象に、衣笠山で森林教室を始めました。2003 年には、衣笠山国有林の一部が「遊々の森」に指定され、以来、当会は近畿中国森林管理局京都大阪森林管理事務所から森林学習・森林体験の指導を委嘱された団体として、自然観察や巣箱掛けなど、金閣小の子どもたちと一緒に衣笠山で様々な活動を続けており、子どもたちの笑顔や 反応が励みになっています。

「安祥寺山ふれあいの森」60ヘクタールの国有林を対象に、京都大阪森林管理事務所と「ふれあいの森」協定を締結しています。会員の研修場として月 1 回の間伐等の森林整備だけでなく、他団体の依頼を受けて、森林体験教室などの指導も実施しています。また樹種 50 種のパーマメントコースを策定し、自然観察マップの作成も行っています。

「府民の森ひよし」での森林体験教室、「山村都市交流の森」での紅葉トレッキング、つる細工教室などの支援活動も継続的に行っています。

最近のイベントとして、ここ数年東山でも、“カシノナガキクイムシ”によるナラ枯れの被害が拡大したのをきっかけに、朝日新聞、京都伝統文化の森推進協議会、京都大阪森林管理事務所と協力して、夏には親子を対象の「京都の森を守ろうウォーク」、冬には大人を対象とした「薪割り&ウォーク」の 自然観察リーダーとして、参加者に有意義で楽しい時間を過ごしてもらえるよう努めています。



←写真左：山村都市交流の森での新緑ウォーキング

↓写真右：京北での小学生を対象にした間伐体験教室



森林インストラクターとは、森林・林業の知識の普及や森林内の野外活動の指導などを行うため、平成 3 年に農林水産省が創設した資格（現在は民間資格に移行）です。

お問い合わせ・連絡先

京都森林インストラクター会

〒600-8127 京都市下京区木屋町通梅湊町 83-1
ひと・まち交流館京都 市民活動総合センター

(メルホックス No. 6)

E-mail : kfia_o@yahoo.co.jp

URL : <http://www.shinrin-instructor.org/>

公益財団法人 オイスカ



オイスカは1961年に日本で創立され、主にアジア・太平洋地域を中心に、農業などを通じた人材育成や、持続可能な地域開発、植林などの環境保全活動を展開し、創立から51年目です。1993年には世界のNGOを代表して、国連「地球サミット賞」を受賞致し、今年の「Rio+20」にも参加しております。

活動としては、特に開発途上国の青少年の育成に力を入れ、昨年度は海外研修センターにて1,196名、日本国内で177名に農業などの研修を行いました。研修を修了した数万人におよぶ研修OBは、各界にて活躍しており、地域の農業技術の普及に携わる人も大勢います。また、1980年に開始した海外植林活動では累計で16,346ha（皇居の面積の約114倍）を緑化しました。日本国内でも森林保全活動（今年度21県40カ所で開催）や、間伐材を利用して行う「森のつみ木広場」（昨年度19県113カ所で開催）などを実施しております。

また、東日本大震災を受けて、「海岸林再生プロジェクト」を立ち上げました。被災地住民や行政、林業事業者や支援者と協働・連携し、2012年3月、100ha相当、50万本の育苗の第1歩を歩み始めました。



各実行委員会の取組 ②

<海外では「子供の森」計画、国内では学校林保全活動>

1991年より、海外版学校林活動とも言える「子供の森」計画を、29の国と地域、4,534校にて実施しております。子どもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植えていく実践活動を通じて「自然を愛する心」「緑を大切にできる気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めています。この活動に対しては、財団法人ベルマーク教育助成財団「友愛援助」を通じて、全国の学校からご支援を頂いております。

また、国内の学校林保全活動は2000年より開始しており、現在では、青森・宮城・山梨・東京・神奈川県・長野・静岡・岐阜・愛知・富山・大阪・兵庫にある合計23校の小・中学校において、教育現場での体験学習が安定的に継続できるように、森林整備とともに、「学校林保全委員会」などの組織立ち上げのサポートなども行っています。

全国約3,000の小・中・高校が保有している学校林は、森林がもたらす教育的効果を十分に得られる最適なフィールドとして見直されつつあります。しかし、いざ学校林を活用しようとしても、森林に関する知識や荒れ果てた学校林を整備するための資金がない、誰に何を相談すればよいか分からない、などの問題を抱えている学校が多いのが現状です。各学校林に関係する方々が協働することによって、地域全体の「ふるさと」として学校林を守り、育ていけるよう活動を進めていきます。



お問合わせ・連絡先

公益財団法人オイスカ 啓発普及部
〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12
TEL: 03-3322-5161 FAX: 03-3324-7111
E-mail: oisca@oisca.org
URL: <http://www.oisca.org/>

多くの支援者が必要です。寄附金募集中！

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

森林は、地球温暖化の防止や災害の防止、景観の保全など多様な役割を担う府民共有の貴重な財産です。しかし、社会経済の変化の中で放置され荒れた森林が増えており、林業関係者だけでは森林を守ることが困難になっています。

このため、京都モデルフォレスト協会では森林に関係する団体だけでなく、森の恵みを受けている府民みんなで京都の森林を守り育む“京都モデルフォレスト運動”を推進しています。

主な京都モデルフォレスト運動の普及啓発と緑を愛し育てる心を育むための事業

① 学校緑化

教育環境の整備と緑を愛し育てる心を育むため、府内の小中学校に対し、植樹木の購入等に要する経費に対して助成しています。



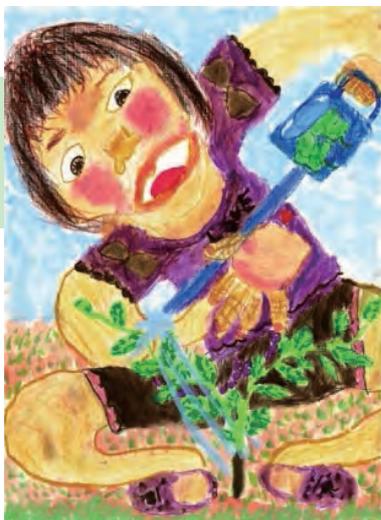
② 森林愛護活動団体育成

森林や緑の大切さを学ぶ緑の少年団活動やボーイスカウト・ガールスカウトが行う森林愛護活動に対し、森林整備活動や学習・交流・研修の経費について支援しています。



③ 緑化運動・愛鳥週間ポスターコンクール

京都府と共催で、府内小中高校の生徒等を対象に緑化及び愛鳥ポスターコンクールを実施しています。優秀作品は表彰、展示するとともに、全国応募のポスター原画コンクールに応募しています。(毎年約3,000点の応募があります。)



平成24年用国土緑化運動・育樹運動
ポスター原画コンクール入賞者
〈小学校の部〉農林水産大臣賞
片山千夏 福知山市立金谷小学校2年

お問い合わせ・連絡先

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会
〒602-8054 京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町
104-2 (府庁西別館内)

TEL / FAX : 075-414-1270

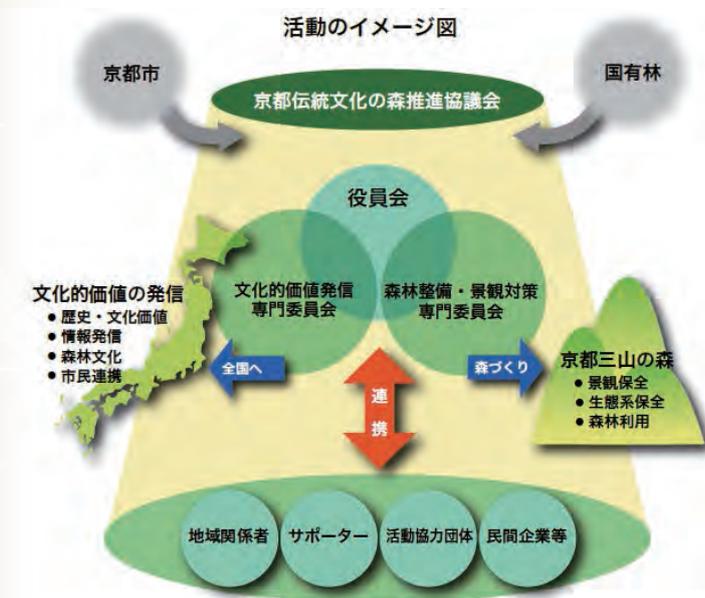
E-mail: kyomori@kyoto-modelforest.jp

京都伝統文化の森推進協議会

京都伝統文化の森推進協議会では、京都の森林のあるべき姿を描き、その実現に向けてみなさんとともに、大きな支援の環をつくろうとしています。

京都三山の植生の変化を目前にしているいま、森林景観を保全するための取組が必要です。そこで寺社、大学・研究機関、観光を含む産業界、森林ボランティア活動に取り組んできた多くの市民等が、国を始めとする行政機関と連携し、平成19年12月「京都の三山の森林景観を守り育てよう」を合言葉に、林野庁・京都市・支援協力者が協力して「京都伝統文化の森推進協議会」を設立しました。

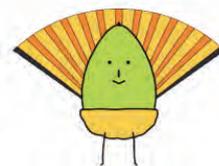
京都には自然と共生する文化が、様々な分野で根付いています。本協議会では、市民とともに大きな支援の環をつくり、京都の森林のあるべき姿の実現に向けて、東山での新たな森づくりを通じ、京都の善き文化を全国に発信することを目的に活動を行っています。



サポーターと活動協力団体

【サポーター】

青蓮院門跡
清水寺
高台寺
祇園商店街振興組



協議会の公式キャラクター「くーりん」

【活動協力団体】

粟田自治連合会
弥栄自治連合会
清水自治連合会
修道自治連合会
清水寺門前会
東山保勝会

ハイアットリージェンシー京都
ウェスティン都ホテル京都
京都室町ライオンズクラブ
ドットカム京都24 霊友会青年部
財団法人 手織技術振興財団

【活動概要】

① 森林整備の実施



② 市民参加イベントの実施



③ 文化的価値の発信



お問合わせ・連絡先

京都伝統文化の森推進協議会 事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地 (京都市役所林業振興課内)

TEL : 075-222-3346

E-mail : uketsukejimu@kyoto-dentoubunkanomori.jp

FAX : 075-221-1253

URL : <http://www.kyoto-dentoubunkanomori.jp/index.html>

京都府農林水産部 モデルフォレスト推進課

京都府の森林は府域の75%を占め、地球温暖化の防止や災害の防止、景観の保全など、多様な役割を担う府民共有の貴重な財産です。しかしながら、社会経済の変化の中で、放置され荒れた森林が増えており、林業関係者だけでは森林を守ることが困難になっています。

京都府では、このように大切な森林を、森の恵みを受けている府民みんなで森を守り育む『京都モデルフォレスト運動』を、公益社団法人京都モデルフォレスト協会と連携して進めています。

また、本年度、西日本で唯一の林業専門の大学校である「京都府立林業大学校」を開校し、最新鋭の高性能林業機械の操作など、実践的な技術・知識を身に付けた第一線で活躍できる人材の育成を図っています。

◇京都モデルフォレスト運動の推進

平成18年度から始まった京都モデルフォレスト運動は、現在、府内34カ所で37の企業・団体が、地域住民、森林組合、ボランティア団体等と連携して、森林整備や木材利用の取組を実施しています。



クヌギの植栽

◇緑の少年団への活動支援

平成24年8月現在、京都府には31の緑の少年団(865名)が結成されています。この少年団によるみどりの募金活動、森林環境学習、緑の少年団交流集会などの取組について、京都モデルフォレスト協会と連携して支援を行っています。



樹木教室

◇林業大学校による人材の育成

平成24年4月、森林・林業の即戦力としての技術や知識はもちろん、自然を尊敬できる人材の育成を目標に開校しました。また、この他に一般府民、新規就業者、林業事業者、森づくり活動を行う企業や森林ボランティア団体など、幅広い層を対象とした研修や講座を開催しています。



お問合わせ・連絡先

京都府農林水産部モデルフォレスト推進課
〒602-8570 京都府上京区下立売通新町西入藪ノ内町
TEL : 075-414-5005 FAX : 075-414-5010
E-mail : modelforest@pref.kyoto.lg.jp

京都市 林業振興課

京都市内の森林では、近年、カシノナガキクイムシ（カシナガ）による樹木の枯死（ナラ枯れ）がまん延しています。そこで京都市では、災害に強く、四季の彩りが感じられる京都三山の再生をめざして、「四季・彩りの森復活プロジェクト」を実施しています。

京都市の市街地を取り囲む森林は、歴史・文化・観光都市京都を彩る貴重な資源であり、市民の心のよりどころとなっています。その森が、今、危機的な状況に瀕しています。

燃料革命以降、薪炭材や肥料採取源として森林が利用されなくなるなど、「人と森林との関係」は大きく変わりました。また、地域にかかる厳しい規制等により、手を入れない状態が続いた森林は、近年のナラ枯れ、ヤシカの食害などにより、森林景観が急速に変化しつつあります。

そこで京都市では、「森の資源を持続的に使って森を元気にする」ための条件を整備し、希薄になった人と森林との関係を復活させることによって、災害に強く、四季の彩りが感じられる京都三山へと再生する取組を行っています。



平成 23 年 8 月 京都市撮影（大文字周辺のナラ枯れの状況）

【主な取組の概要】

① 林相改善・誘導施業



ナラ枯れ跡地に防鹿柵を設置し、苗木の植栽を行っています。

② 地域団体・企業等との協働



企業等との協働により、植樹活動等を推進しています。

お問い合わせ・連絡先

京都市 産業観光局 農林振興室 林業振興課

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地

TEL : 075-222-3346 FAX : 075-221-1253

E-mail : ringyosinko @ city. kyoto. jp

URL : <http://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/soshiki/7-4-0-0-0.html>

林野庁

国有林における森林環境教育の推進



◎ 森林で遊んで、学び、楽しむ「遊々の森」

「遊々の森」は、学校などが森林管理署と協定を結ぶことにより、さまざまな体験活動や学習活動を行うフィールドとして、国有林野を継続的にご利用いただく制度です。

森林管理署が予め選定した区域に応募して頂くことや、利用を希望する学校等と森林管理署が相談することにより、「遊々の森」の箇所を決めて協定を結びます。学校教育の「社会」や「総合的な学習の時間」などにおいて、森林内での活動を通じた子どもたちの人格形成や、幅広い知識の習得を行う森林環境教育（森林教室、林業体験、自然体験など）の場としてご利用いただけます。

※「遊々の森」については林野庁 HP もご参照ください。

http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/kokumin_sanka/kyouteiseido/kyoteiseido.html

森林教室



野鳥の観察



◎ 森林・林業体験交流促進対策

森林・林業体験活動の場としてふさわしい豊かな森林環境を有し、近隣の農山漁村における体験活動とも連携が図られる国有林野において、多様な主体との連携により森林環境教育の一層の推進を図るため、平成 21 年度から「森林・林業体験交流促進対策」を開始しており、本年度は 7 地域で取組を進めています。

全国の森林管理局・署において、学習・体験のプログラムやフィールドの整備、団体等への情報提供に取組んでいます。

森林管理局	実施地域（H24 年度）
北海道	北海道札幌市
東北	秋田県由利本荘市
関東	福島県福島市、新潟県魚沼市※
近畿中国	鳥取県鳥取市※
四国	高知県室戸市
九州	宮崎県日南市

※「子ども農山漁村交流プロジェクト」の受入モデル地域



お問合わせ・連絡先

① 北海道森林管理局

指導普及課 …… TEL : 011-622-5245
<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

② 東北森林管理局

指導普及課 …… TEL : 050-3160-6456
<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>

③ 関東森林管理局

指導普及課 …… TEL : 027-210-1175
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>

④ 中部森林管理局

指導普及課 …… TEL : 050-3160-6553
<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/>

⑤ 近畿中国森林管理局

指導普及課 …… TEL : 050-3160-6753
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

⑥ 四国森林管理局

指導普及課 …… TEL : 088-821-2121
<http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

⑦ 九州森林管理局

指導普及課 …… TEL : 096-328-3593
<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>

⑧ 林野庁

国有林野総合利用推進室 …… TEL : 03-3503-2038
http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/

近畿中国森林管理局

近畿中国森林管理局における森林環境教育の取組

近畿中国森林管理局は、東は石川県から西は山口県までの2府12県を管轄区域として、国有林野等約34万ヘクタール（大阪府2個弱の面積）を管理経営しています。特徴としては、比較的小規模の森林が分散・点在していますが、都市近郊の森林から奥地の原生的な天然林まで様々なタイプがあります。

また、京都嵐山国有林をはじめとする「世界文化遺産貢献の森林」、国宝重要文化財等の伝統的建築物を守り伝えていくための「檜皮採取林」など、伝統や文化的なつながりの強い森林だけでなく、優れた景観を有する森林、貴重な野生動植物が生息する学術的に重要な森林、水源を守るなど生活に欠くことのできない森林などが各地にあります。



世界文化遺産 貢献の森

京都府 嵐山国有林
渡月橋と嵐山風景林



檜皮採取林

もとかわし
原皮師による
ひわだ
檜皮の採取

こうした特色ある森林の一部を活用して、森林管理局・署等では、幼稚園児や小中学生・高校生だけでなく先生方や地域の方々に、森林の働き・森林の活用・森林を守る林業の役割・特徴などを、より理解していただく機会を提供しています。

具体的には、次のようなことを行っています。

- ①「遊々の森」(注1)設定によるフィールドの提供
- ②子どもたちへの森林教室・林業体験、
- ③教職員を対象とした研修会の開催
- ④学校教育において森林環境教育の導入・促進を図るための「森林環境教育手引書」等の学習教材の提供
- ⑤森林・林業体験活動交流促進対策(注2)を通じた総合的な取組

(注1)(注2)詳細は前頁を参照してください。

・フィールドの提供



苗木を造るためのドングリ拾い

・子どもたちへの森林教室



森の中での出前森林教室

・研修会の開催



教職員を対象とした研修会の開催

・学習教材の提供



森林環境教育手引書
(右は付属のDVD)

お問い合わせ
連絡先

近畿中国森林管理局 指導普及課

TEL : 050-3160-6751

箕面森林環境保全ふれあいセンター

TEL : 050-3160-6710

〒530-0042 大阪府大阪市北区天満橋 1-8-75 E-mail : kc_shidou@rinya.maff.go.jp



タラヨウの葉

モチノキ属 <多羅葉 / 別名モンツキシバ>

名前の由来 / 葉裏を細い棒でひっかくと、そこが黒く変色して浮き上がり、文字を書くことができる。

この性質を、インドで葉に経文を書く多羅葉（ヤシ科のウチワヤシ）にたとえて、多羅葉という名がついた。